



平成23年度第1回
箕面市国民健康保険運営協議会 別冊資料

別冊資料 医療費分析の取り組みに向けて

平成23年8月23日
保健・医療・福祉連携特命チーム

医療費分析の手法

1. 過去の診療データの傾向把握

(1) 国民健康保険データ（平成20年度～22年度の5月診療分）

○疾病別、医療機関別、入院・外来別に、患者数及び診療日数を把握

○府下の傾向とも比較

(2) 市立病院診療データ（平成20年度～22年度の診療データで、数ヶ月分）

○疾病別、保険別、市内・市外別、入院外来別に、診療費、患者数を把握



医療費の高騰につながる要因を分析

2. 上記の結果から、高額な医療費のケースの事例検討

(例：30万円以上、50万円以上、100万円以上)



特定健診、がん検診の受診との因果関係をさぐる。

3. 行動変容推進事業（大阪府）

(平成23年度5月の診療分データ分析)



府からプログラムの提示を得る。

「1.」と ほぼ同じ作業内容だが
「府からプログラム提示」があり、
「そのプログラムが補助金対象となる
場合がある」

1.過去の診療データの傾向把握

平成20年～22年度の診療データにより、府下の傾向も含めて分析して対策を考える。

- 仮説（１） ○○病患者の数が多い。
→保健事業において○○病対策事業の増
- 仮説（２） 中程度の慢性疾患の通院が多い。（重症化予備群）
→重症化予防として生活改善を目的に保健事業の場を増やす。
- 仮説（３） △△病患者は医療費が高額となるケースが多い。
→がん検診、特定健診の受診率向上へ
→事例検討でさらなる分析を
- 仮説（４） □□病の患者は入院日数が全国平均よりもかなり長い
（診断群分類別包括評価データでの比較）
→診療内容を見直し、平均に近づけることで、医療費も少額ですむ。

2.高額な医療費のケースの事例検討

(1) 国民健康保険のケース検討

○高額な医療のケースの抽出

事例1 中度の慢性疾患で通院回数が多い事例
(1回あたりの医療費は少ないが、期間が長い)

事例2 がんによる入院・手術
(期間は長くないが、1回の医療費が高い)

事例3 生活習慣病が悪化し、入院・手術を要する事例
(療養期間はさまざま。結果的に高額な医療を要する)

○事例1～3の逆事例の抽出を試みる

特定健診、がん検診、各種保健事業の活用により重篤に至らず、健康状態を保ちながら、少額の医療費ですむ事例

(2) 市立病院のケース検討

○早期発見の場合の総治療費と、発見が遅れた場合の総治療費の比較

○がんの発見時のステージ(がんの進行度)別の治療費の比較 など

各事例から、医療費削減につながる解決策の糸口を見つけたい